

このニュースレターでは学生達の活躍、講義や実習の様子、学科の取り組み、動物豆知識などを紹介します。獣医保健看護学科に興味を持ってくれた高校生の皆さんとのコミュニケーションツールになればと思っています。

獣医保健看護学科と獣医学科の共同学外実習

1年生の春学期に開講される「動物関連キャリア概論」は学外実習として、多岐にわたる獣医事分野に関わる機関を見学します。獣医保健看護学科、獣医学科学生が共同で体験し、自らの専門性をいかせる可能性のある様々な動物関連の職域の広さを知り、その業務内容、役割等を理解します。それぞれが身につける専門性を、将来、どのようにいかすことができるかを、現場見学を通して考える機会とすることを目的としています。今年度は約200名の学生が愛媛県内はもちろん、高知競馬場等四国地方4県、山田みつばち農園等中国地方の24施設の見学を行いました。

見学先：愛媛県 畜産研究センター

開 由里菜

愛媛県畜産研究センターの見学に参加しました。センターでは、愛媛甘とろ豚や愛媛あかね和牛等重要な遺伝資源品種が飼育されるとともに、受精卵や精液の凍結保存が行われており、豚熱等の感染症が蔓延した場合でも人工授精によって品種を守ることが出来ることが学べました。また、生まれたばかりの子牛を、職員の方々が立てるよう手助けをしていました。小さな命ために一生懸命になる姿はカッコよかったです。センターの職員の方々の家畜の品種を守る姿勢を見て、私も動物に寄り添える獣医関連専門家（VPP）になりたいと思いました。

今回の実習により、畜産分野への興味が広がり将来について考えるきっかけとなりました。学んだことをいかして、今後も頑張っていきたいと思えます。



見学先：国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産技術研究所

増田 晴河

伯方島にある水産技術研究所を見学させていただきました。職員の方に講義をしていただき、また、所内設備や設備ごとの工夫を見せていただきました。見学先では、アンリ・ポアンカレの言葉を引用し、すぐに役に立たずとも先を見据えて研究に取り組む姿勢の重要性や、靴底を薬剤で消毒することで外部からの微生物の流入を防ぎ、病気にかかるリスクを下げるという病気の予防の重要性を教えてくださいました。

初めての学外の施設見学は新鮮で多くの学びを得ました。この貴重な体験を今後の大学生活にもいかしていきたいと思います。



